

平成22年 4月15日

プロジェクト報告書

団体名： 特定非営利法人東村山生き生きまちづくり

1. プロジェクト名

ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発事業

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

市民・行政・企業等との協働により地域コミュニティの実現を目指し、まちづくり・人づくり・人権の森の3つの委員会構成でNPOを組織しています。このプロジェクトは「人権の森委員会」が所管します。国立ハンセン病療養所「全生園」が市内に所在します。ハンセン病元患者は国の誤った施策により強制収容され、人権侵害・感染症として長い間偏見差別をされ続けて来ました。今もその偏見などについて残念ながら残っている中で、次世代を含め偏見・差別・人権侵害を繰り返さないために啓もう啓発活動をするを目的にします。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

東村山市青葉町に所在するハンセン病国立療養所「多磨全生園」内入所者自治会と協力して、ハンセン病に対する偏見や差別を解決するための講演会や地域共生の諸事業を展開して、その状況をDVD化する等啓発・啓蒙事業に努めます。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

事業の実施に当たりその事業自体が啓発活動の効果を創出するように、多摩東人権擁護委員会・古河市（元ハンセン病患者平沢氏の故郷）との合同交流会や入所者自治会との共催、東村山行政、教育委員会講演により実施する等いろいろな場面に協働思想を導入しました。事例：①成田稔館長の講演「ハンセン病資料館の果たす役割」その後自治会前会長平沢さんの講演。②「テーマ「住良い街で？」（どんなまち・それぞれの立場で多様な意見を）パネルディスカッション。③演劇企画くすのき宮沢賢治 語り芝居国立療養所 多磨全生園設置 100周年記念事業。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

21年度「市民活動助成」を受け、諸事業の推進に当たり内容の充実とそれぞれ事業の高質化を図ることが出来ました。特に、21年9月28日全生園が創設されて100年の歴史を刻んできましたがこの歴史を沢山の場面で周知し啓もう啓発に貢献できました。

6. 参考資料

作成致しましたチラシ・写真添付。なおDVDなど事業終了後事務局にお送りしています。